

鹿児島の動物⑪

ケナガネズミ

(ネズミ科, 国指定天然記念物, 絶滅危惧 I B 類)

脊椎動物担当 中間 弘

ケナガネズミは、奄美大島と徳之島、沖縄島に生息する琉球列島固有種です。体長が60cm(胴体30cm)以上にもなる日本最大のネズミです。2cmほどの長さの体毛に加えて、背中に6cmにもなる長い毛があることから、この名前がつけました。また、尾は太くて長く(胴体より長い)、先端側の半分ほどが白いのが特徴です。

夜行性で、スタジイやオキナワウラジロガシの森林に生息し、昼間は樹洞の中で休息します。ほとんど樹の上で生活し、アカメガシワやウラジロエノキ、スタジイなどの実や葉などを食べます。アブラガヤの結実期には地上に降りて採食することもあります。

自然林の大径木にできた樹洞に枯れ葉などを入れて巣を作ります。森林伐採によって、樹洞のある大径木が失われたことで好適な生

息環境がなくなり、確実に生息数が減少しています。

基本的に樹上生活で、枝から枝に渡りながらいどうし、ほとんど地上に降りることはないのですが、林道建設や森林伐採などによって連続した樹上空間が奪われることで地上移動が余儀なくされています。しかし、行動が比較的ゆっくりであることから、地上に降りた場合、マングースや野犬・野猫に捕食されたり、車に轢かれたりすることが考えられます。



鹿児島の植物⑫

霧島のスゲ

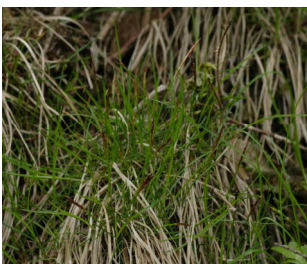
植物担当 大屋 哲

平成18年度から霧島の調査が始まりました。今年度は5月に3回調査に行きました。私がこの時期にどうしても気になるのがカヤツリグサ科スゲ属の植物です。葉だけでは区別のむずかしいこれらの植物は、花や果実が4月から6月につくものが多いため、この時期に調べるのが一番よいのです。

霧島で確認できたスゲを紹介します。

ヒナスゲ

葉は細く高さが15cmぐらいです。霧島では林内に生えていました。スゲの中ではあまり見られない雌雄異株の種です。



ヒナスゲの雄花



ヒナスゲの雌花

コイワカンスゲ

火山れき地や風の強い場所に生えます。 ↗

霧島では大波池や新燃岳など頂上部に普通に見られました。花は上部に棍棒の形をした雄花がつき、その下に接近して雌花がつきます。

ヤチカワズスゲ

山地部の湿地に見られるスゲです。霧島では、白紫池など池の周りの湿ったところに見られました。花は上部に雌花が下部に雄花が集まってできています。



霧島の山を登りながら、ミヤマキリシマのいいですが、目立たぬ小さな花を探してみたいかがでしょうか。「それにしても写真映えないんだよね。」 by T主任